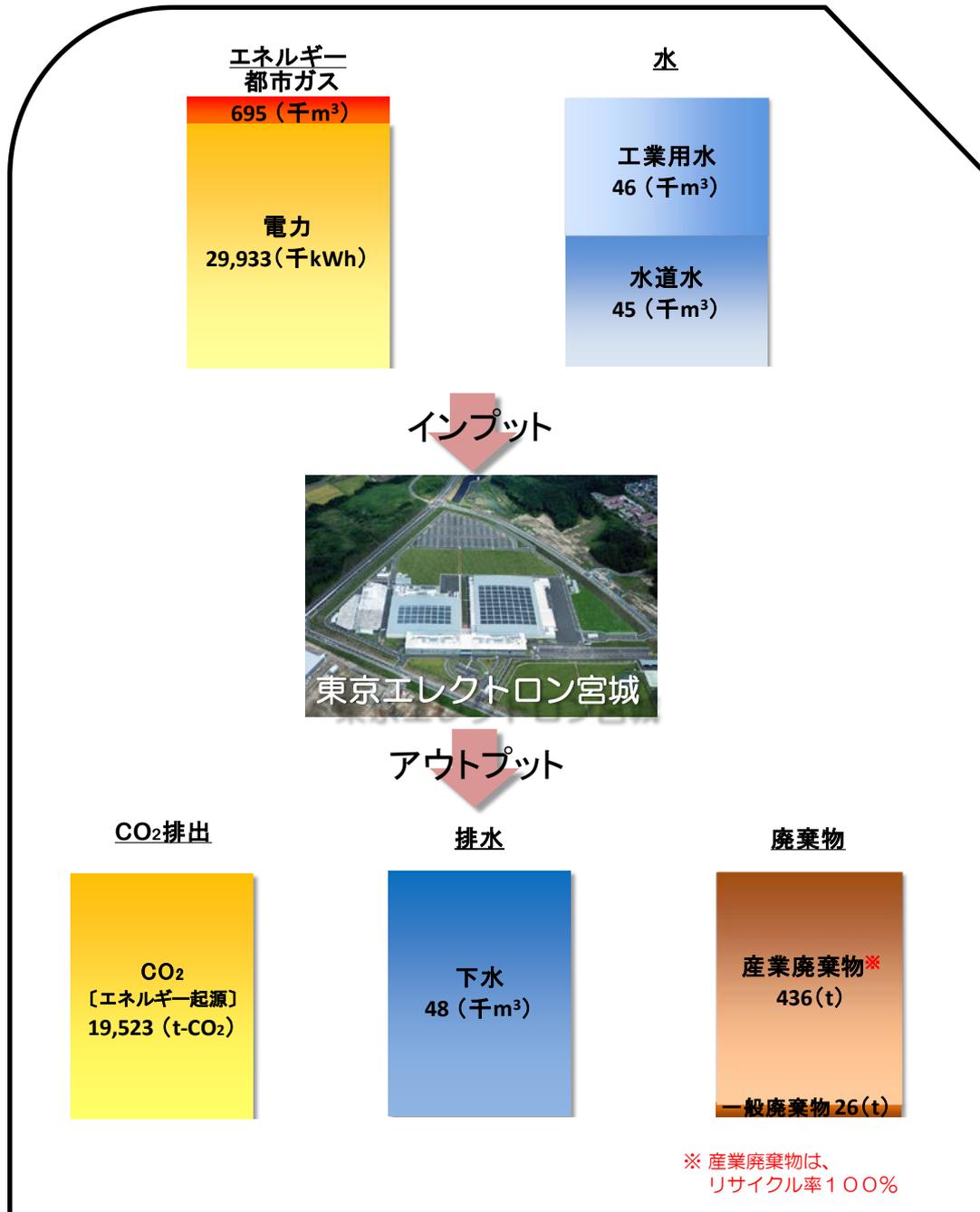


東京エレクトロン宮城の環境パフォーマンス

大和事業所の昨年度の環境負荷として、インプット（エネルギー・水）とアウトプット（CO₂排出・排水・廃棄物）を示します。2013年度は他事業所から一部業務が移管されたことにより、対前年度比約7%のエネルギー増加となりました。2014年度についても新たな業務移管が予定されており、エネルギー使用は増加が予想されますが、より効率的な運用に努め、工場で使われるエネルギーと資源について3R（Reduce・Reuse・Recycle）を進めることで、今後とも更なる環境負荷低減に努めてまいります。



eco エネルギーの使用

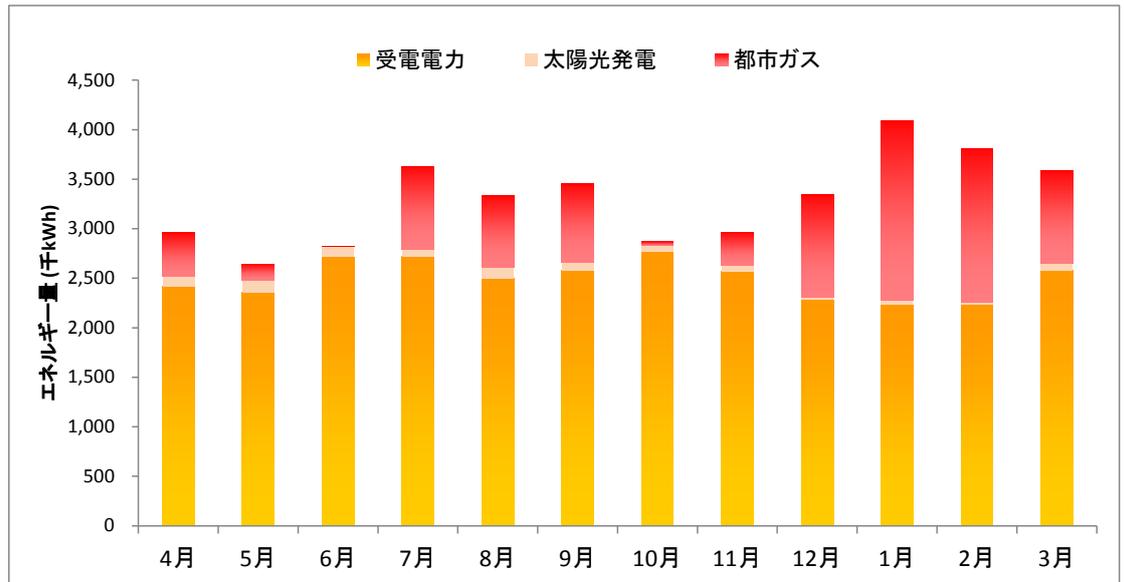
使用エネルギーの月別内訳を示します。

夏季は冷房、冬季は暖房により消費エネルギー量が増加します。

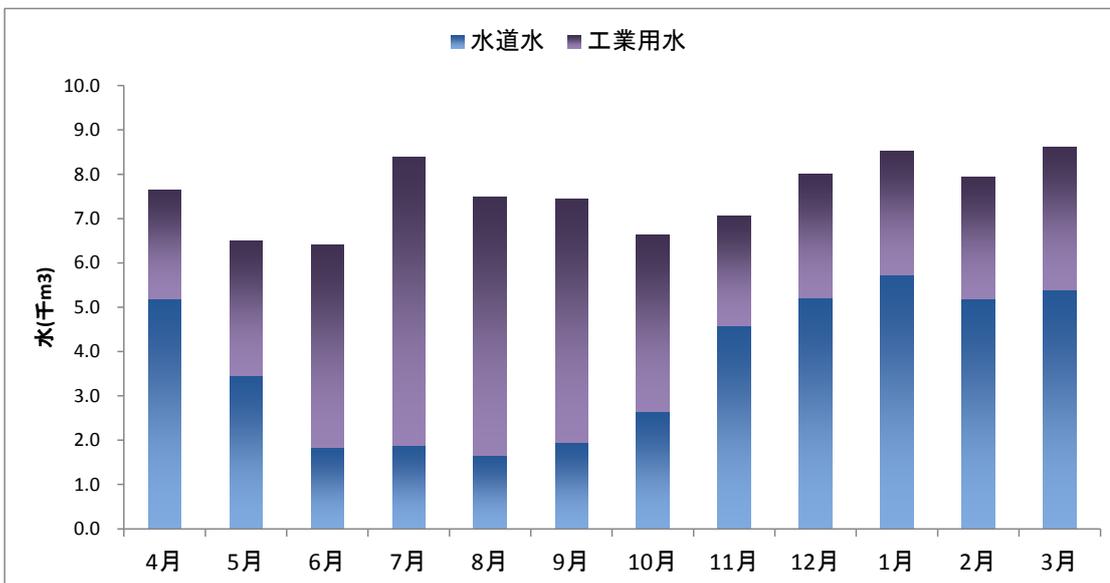
また、夏期（7～9月）と冬期（12～2月）はピーク時の電力カットのため、日中はコージェネレーションシステムを稼働させて、一年

を通じた受電電力の平準化を図っています。また、冬期の暖房熱源の一部に都市ガスを利用していることから、都市ガスのエネルギー量は冬期が最大となりました。

昨年度通年の全体消費エネルギー量に対する受給割合は、太陽光発電 2.2%、都市ガス 22.0%、電力 75.8%でした。



eco 水の使用



使用水量の月別内訳を示します。

水道水に比べ、環境負荷がおよそ30%^{※1}の工業用水を、空調の冷却用水やトイレの洗浄水、植栽散水などに利用し、環境負荷低減を図っています。昨年度は使用水量の51%を工業用水としました。

※1 出典：CFP プログラム (<http://www.cfp-japan.jp/>) 算定基本データ集

東京エレクトロン宮城株式会社 総務部
〒981-3629 宮城県 黒川郡 大和町 テクノヒルズ 1 番
TEL : 022-346-3000 URL : <http://www.tel.co.jp/tml/>

発行：2014年7月

